

文化庁日本語教育大会 第1分科会

地域日本語教育コーディネーターの 実践紹介

ファシリテーター 土井佳彦（NPO法人多文化共生リソースセンター東海）
発表者 近藤徳明（公益財団法人京都府国際センター）
長尾晴香（Vivaおかざき！！）

<スケジュール>

- 13:00~** 「地域日本語教育コーディネーター」とは？
～機能と役割～
- 13:25~** 実践報告
発表20分＋質疑応答10分 × 2セット
- 14:30~** 全体ディスカッション
- 15:00** 終了



文化審議会国語分科会日本語教育小委員会

○平成21年1月

【報告書】

「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」

⇒以下の4点についてまとめ

- ① 体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担
- ② 各機関の連携協力の在り方
- ③ コーディネート機関・人材の必要性
- ④ 日本語教育の内容の大枠

コーディネート機関・人材の必要性

- …都道府県及び市町村においては、地域の特性に応じた日本語教育の企画・運営を行うため、大学や研究機関の研究者、日本語教師、企業関係者、国際交流協会関係者、NPO関係者、ボランティア、在住外国人等の協力を得て、地域の実情に応じた日本語教育を実践する必要がある。
- …都道府県及び市町村においては、日本語教育のコーディネート機能を自治体等の本来業務として位置付け、それを担う人材をできる限り常勤職員として配置することが重要。

地域日本語教育の3つの活動ステージと5つの役割

現状把握
課題設定

ファシリテ
ーション

連携

リソースの
把握・活用

方法の
開発

地域連携(体制整備)

自治体
(福祉など)

外国人
支援NPO

他の日本語教室
日本語NW

公共施設
店・病院など

自治体
国際交流協会



課題

教育機関
(大学など)

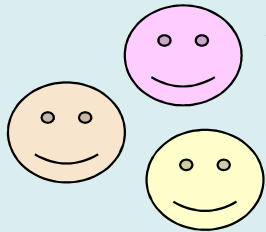
地域住民
(自治会)

子どもの
学校

教室運営(学習環境整備)

環境整備

就労現場



課題

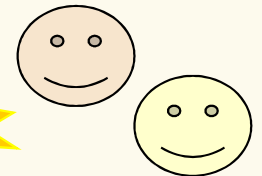
家庭

教室活動(コースデザイン)

人材育成

課題

課題



自治体
国際交流協会

① コミュニケーション支援

地域における情報の多言語化

行政情報の多言語化、生活相談窓口の設置、通訳ボランティアの育成、情報提供の流通ルートの確保 等

日本語および日本社会に関する学習の支援

オリエンテーション、日本語・日本社会の学習機会の提供 等

② 生活支援

居住 多言語情報提供による居住支援、不動産業者への啓発 等

教育 学習支援、不就学の子どもへの対応、進路指導・就職支援 等

労働環境 ハローワーク・商工会議所等との連携による就業支援・就業環境の改善 等

医療・保健・福祉 問診票の多言語表記、広域的な通訳派遣システムの構築 等

防災 平常時の防災教育・訓練、緊急時の災害情報伝達、防災計画への位置付け 等

③ 多文化共生の地域づくり

地域社会に対する意識啓発 日本人住民の意識啓発、交流イベント開催 等

外国人住民の自立と社会参画 キーパーソンや外国人自助組織の育成 等

多文化共生施策の推進体制の整備

地方自治体の体制整備

担当部署の設置、指針・計画の策定

地域における各主体の役割分担と連携・協働

地方自治体、国際交流協会、NPO等の役割分担の明確化と連携・協働

国の役割、企業の役割の明確化

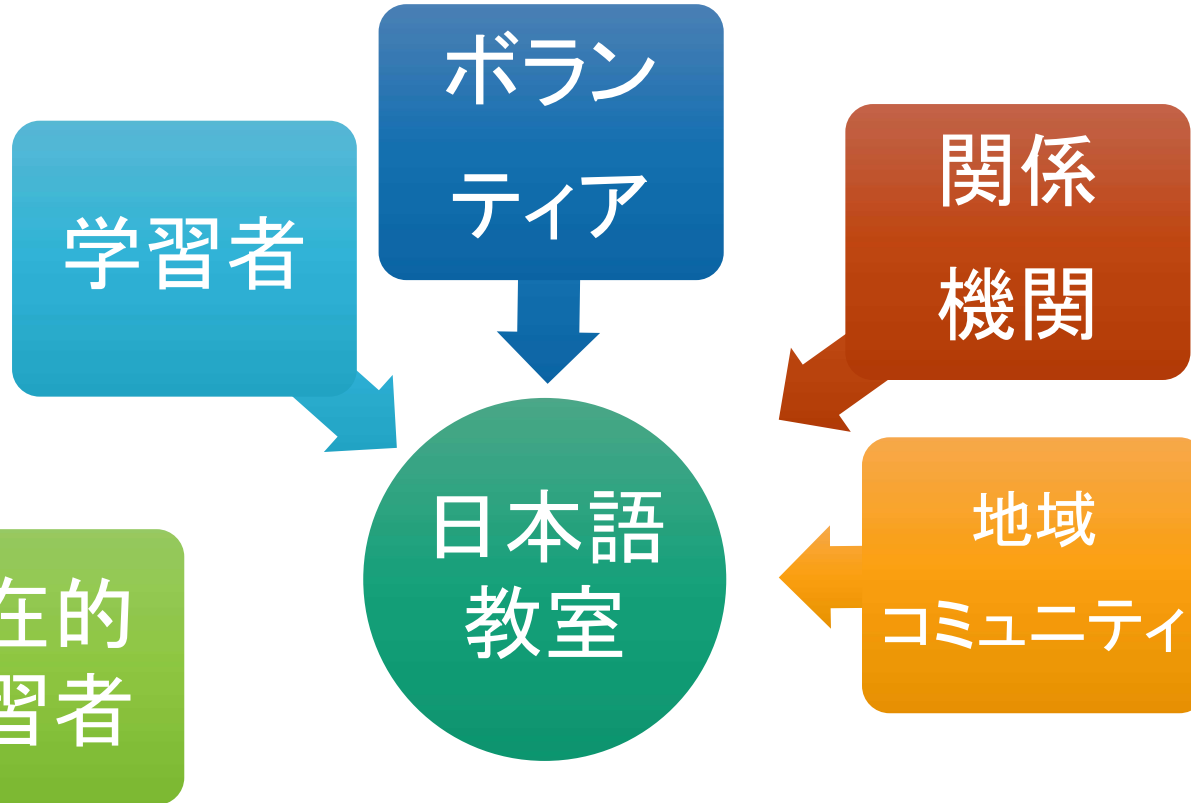
国：外国人受け入れの基本的考え方、オリエンテーション等
企業：企業の社会的責任の履行

だれの、なんのために？

ステークホルダー (利害関係者)

- 社会参加
- 有用感
- 居場所感

- 日本語力
- 生活情報
- 人間関係
- 居場所感



- 情報共有
- 相談
- 提案
- 協働
- 課題改善

- 日本語学習機会
- 各種情報提供

実践事例報告

● **報告 1** **都道府県での活動事例**
公益財団法人京都府国際センター
近藤 徳明さん

● **報告 2** **愛知県岡崎市での活動事例**
Vivaおかざき！！
長尾 晴香さん

.....
* 報告20分＋質疑10分

* 各活動に関する質疑応答・意見交換・情報共有等

実践事例報告のポイント

- 活動ステージ

- 課題設定

 - 現状把握のために何をしたか
 - 課題設定の失敗談

- 課題解決のプロセスでの「5つの役割」

- 課題解決の結果・プロセスを振り返って